

元氣 パワー
*** GP 農法だより ***
 無農薬自然農法 元氣パワー農法

発行 GP農法研究会 NO16
 代表 佐藤 陸
 〒344-0041 埼玉県春日部市増富 243-53
 TEL 090-4672-1285 FAX 048-763-5362

《全国版新聞「農民」に掲載されました》

* GP 農法について

消費者に安心安全と美味しい農産物を提供することは生産者の使命です。そのために、福岡・岡田式自然農法に学んで農業技術を研鑽しています。自然農法のポイントは次の三点です。

- ① 化学肥料を使用しない。
- ② 農薬は使わない。
- ③ 微生物の力を利用する。

しかし、岡田・福岡式自然農法とも効果が出るまで3～5年の歳月が必要なため、その間は収量が大幅に落ち経済的にも困難になります。我慢しきれなくなり、農薬や化学肥料を使用すればこの農法は失敗に終わります。

自然農法で栽培された農産物は「醗酵する米・野菜」となり身体にとって有効で付加価値の高い生産物になります。アトピーを治すために親は「醗酵する米」を追い求めています。葉物は腐らず枯れ、米は醗酵しドブコクになります。

GP 農法推進プロジェクトは、研究者の力も借りて福岡・岡田式自然農法と同じ方向性でありながら、次の三つの農業資材で、誰にでもできる（再現性）方法で、短期間に効果の出る方法の開発に成功しました。これを「GP 農法」（G=元氣、P=パワー）と命名しました。

【3つの農業資材について】

その①・・「GP セラミック」

パワーのある「セラミック」を開発したこと。このパワーで土着菌を活性化し、土壌微生物を爆発的に増殖させることができ、元氣な圃場をつくることができた。つまり、微生物の力を最大限に利用する。

その②・・「GP モミガラボカシ」

もみがらを乳酸菌、アミノ酸、オカラ、鶏糞などでボカシして微生物の有効なエサとして確保できたこと。

その③・・「GP 雑草エキス」

1～3週間で雑草からエキスを抽出することに成功したこと。雑草エキスは病虫害の予防肥料効果など、

福岡・岡田式自然農法の核心部です。

GP 資材を使用したことで次のような結果がでています。

- 団粒構造が容易にでき豊かな土壌となり、農作業がやりやすくなった。
- 永年悩まされ線虫被害から解放。白菜「根こぶ病」が完全になくなり、肌の真っ白なカブや大根が収穫できた。
- 永い間、習慣でやっていたイチゴの土壌消毒をやめたが、心配された「炭素病」、「うどん粉病」などの被害はない。
- 10年連続栽培トウモロコシの「連作障害」は未だない。
- トマト4花房目から「立ち枯れ病」などの病気がなくなった。

埼玉県農民運動連合会 埼玉支部 (高橋)
 事務局 090-6933-1755

《生産者の紹介》 戸口英子さん(埼玉・鳩山町)



田・畑合わせて1町8反、GP 農法を取り入れて2年位になります。

野菜だけでなく、お花・野菜苗も育てています。苗のハウスは、底にヒーターがあり、その上に種を蒔いたポットをのせて育てます。もちろんタネは、元氣水を100倍希釈した液につけています。

去年、市販の苗と戸口さんの苗をくらべると違いが出て、戸口さんの方は虫や病気にならず、沢山収穫できたと評判がいいです。

今年の春先に長野県の農家が視察にいらして、長ネギの根がしっかりと長いのにビックリしていました。

宅配の野菜セットは、戸口さんの野菜をたくさん利用しています。今では、戸口さんの仲間の農家にGP 農法がひろがり、野菜だけでなく、柿、ブルーベリー、イチゴもこの農法で育てられています。来年は、タケノコも期待できます。

《GP 農法で自然発酵する米づくり》

GP 農法では、水稻の場合でも初年度から自然発酵する米ができます。(ただし、登熟期に日中と夜の気温差がなく25℃前後になる時は厳しい) 化成肥料・農薬中心で栽培した米は、発酵テストをすると腐敗してしまいます。外米も殆どが腐敗します。外米は生産過程では農薬の施用量は少ないのですが、輸入する際、防虫のために農薬を使ってしまうからです。長い間腐敗するような米や野菜・抗生物質入りの肉や加工食品を食べていると、人体はストレスがたまり、アレルギー体質になって病弱になります。日本人が「主食」としている米、安全で、食べると元気になるような米の生産をめざしています。

1、GP農法で活用する資材

- ①GP セラミック
- ②GP モミガラぼかし。
- ③GP 雑草エキス
- ④GP 元気水 Kタイプ

2、

イ) 特種加工した GP セラミックは、好気性微生物用と嫌気性微生物用がセットになったものです。これを土壌の深さ40cm位のところに埋設します。

ロ) GP モミガラぼかしの活用

GP セラミックを埋設して、1～3カ月もすると土着微生物が元気になるが、そこに微生物のエサが必要です。そこでモミガラ等で作ったぼかしを施用することです。これまで堆肥を全く施用しなかったところには、10アール当たり700～800kg。土づくりをしっかりやってきた所には、500kgのモミガラ等のぼかしを施用してください。初期生育が弱い場合にはモミガラと発酵鶏糞で作ったぼかしを200～300kg施用してみてください。圃場の姿は千差万別ですから、それに合わせた対応をすることが望ましいです。

ハ) GP 雑草エキスは、中国の漢方の書、「神農本草経」に基づき、草本来の力を活用して製造したエキスです。ですから安全で、土に馴染みやすく速効性があり、非常に広範囲に活用できます。

ニ) 雑草エキスをどれ位施すかの一応の目安は、根コブ病や線虫・夜盗虫等には、原液を50～100倍に薄め、直接土に散布。その他、空中を飛んでる害虫(スリップス等も含む)には500倍液を葉面散布。熱帯夜・急な寒さや台風などの風の傷みなど、いわゆる生理障

害にも回復が早くなります。

ホ) GP 農法で元気になった土壌を確認するには、簡易微生物発生調査で、誰もが確認できます。



水道水150ccにサンプル土壌を3g(中サイ一杯)入れる。

その後、よく攪拌(5分程度)する。

左記写真は15分後の状況

右側: 元気霊芝を埋設畑で微生物の増殖を確認

左側: 通常の畑の微生物の状況

ヘ) 種モミ処理には、GP 元気水 Kタイプの活用。

これから種モミを浸水する方は、Kタイプ100～300倍液に1～2日浸けるとバカ苗病はじめ、ほとんどの病害は発生しません。また大豆のような種子には噴霧するだけでも病・虫の発生を防ぐことができます。水稻の場合も苗箱にあるうちなら、噴霧して下さい。(施用後は保存して長期間活用できます。)

《雑草エキス製造過程のエピソード》

草のエネルギーの抽出過程の時に不思議な経験をしました。阿蘇国立公園の畑での出来事です。

20種類以上の草、雑草を大きなタンクに入れ、セラミック・米ぬか・水で草のエネルギーの液を作っていました。何度も何度も繰り返し作って、草のエネルギー液を大量に作りました。そしてその都度、草は堆肥として使えるのでタンクから取り出し、山積みになりました。量にしたら、かなりの量になったはずですが、それが毎回きれいに無くなってしまふのです。その場には糞だけが残っています。動物達が草を食べにきているのです。あたり一面に草はいっぱいあるのに、この草だけを食べに来るのです。

◆動物達は、草のエネルギーが判るのではと思いました。動物達がヒントを与えてくれたと思っています。